

(参考資料) 黒沼委員からの事前意見

議題3 大学からの更新申請に基づく認定について

(1) 武蔵野大学

意見なし

(2) 玉川大学

過年度の変更について、人文科学は2科目廃止されており、残った科目が事実上必修になっている。

本来は幅広く選択肢があるとよいが、学科の中心から外れる分野が（自然・社会・人文を最低6単位以上履修する要件により）事実上の必修になりがちなのはECO-TOPプログラムの制度の課題でもある。

議題4 ECO-TOPプログラムの見直しについて

(1) カリキュラム要件の緩和について

- ・現在の要件では、認定の際に学科まで縛っているため、参加できる学生が限られる。検討の余地はないか。

(2) インターンシップの負担軽減について（3分野・4単位→2単位）

- ・2単位まで軽減すべきか、まずは3単位に留めるか要検討。
- ・理想は3ヶ所への参加。1ヶ所よりは2ヶ所への参加が好ましい。
- ・認定大学によってインターンシップ経験に差ができるため、現在の認定水準を維持する認定大学からは履修生の質の低下が懸念される可能性がある。ただ、インターンシップは大学にとって負担であることは確か。
- ・質を担保するために、インターンシップや学生の成果発表に向け事前のガイダンスとしてECO-TOPが期待するポイントのようなものを担当教員や履修学生へ何らかの方法で周知し、合同報告会のポスターセッション等でその成果内容が見られるとよりよくなるのではないか。
- ・自然環境に直接関わらない組織や部署であっても、学生がその役割や機能等から自然保護に関連付けて自ら考え探究することを実践するインターンシップも考えられないか。

(3) 新たなプログラムの検討案

②学生による自主的な取組の評価について

- ・従事した期間（時間）・内容の証明ができれば単位認定の可能性はある。
- ・行政とボランティアの関係を考える等目的を持って活動することが重要。
- ・地域や自治体と大学との連携は現在もある。そこに学生が参加する等の機会を単位認定につなげて、ECO-TOPの制度に組み入れる余地はある。
- ・学生の選択肢が広がるプログラムとなる可能性もあるのでは。

その他

- ・学生は「資格」には敏感なので、ECO-TOP修了生になるとどんな利点があるのかアピールできる内容があるとよい。